

社長メッセージ

本年4月に、グループCEOに就任しました亀澤です。株主の皆さまには、平素より格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

また、新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた方々に謹んで哀悼の意を表するとともに、感染された方々やそのご家族に心からお見舞いを申し上げます。

MUFGは、本業である金融サービスを通じて、お客さまや社会を支え続けていくことが社会的使命と考え、行動しています。

まず、2019年度の業績についてご説明した後、今後のMUFGの取り組みについてご説明します。



2019年度の業績について

業務粗利益は、市場関連収益の増加に加え、インドネシアのバンクダナモンや、豪州のアセットマネジメント会社First Sentier Investorsの連結子会社化による増収もあり、前年度比2,605億円増加の3兆9,863億円となりました。営業費は、海外での業容拡大や規制対応費用増加を主因に、前年度比1,547億円の増加となりました。この結果、業務純益は前年度比1,058億円増加し1兆1,844億円となり、5年ぶりに増加に転じました。

親会社株主純利益は、前年度に計上した貸倒引当金の戻入の反動や新型コロナウイルス感染症拡大による影響を考慮した引当金の計上等により与信関連費用が増加したことや、バンクダナモンおよびタイのクルンシィ(アユタヤ銀行)ののれん一括償却に伴う特別損失を計上したことにより、前年度比3,445億円減少の5,281億円となりました。

当社財務の健全性を示す自己資本比率は、2020年3月末の普通株式等Tier1比率が11.90%と、引き続き十分な水準を確保しています。

2019年度の期末配当は、期初予想の通り1株当たり12.5円としました。年間配当は、中間配当とあわせて25円と、前年度比で3円の増配となります。また、

2020年度の配当につきましては、感染症拡大の収束時期や経済・社会への影響は不透明ではありますが、一定の前提*を置いた上で、1株当たり年間配当予想25円を発表しました。

*2019年度決算ハイライト11ページをご参照願います

新型コロナウイルス感染症拡大を受けた取り組みについて

いま世界は、新型コロナウイルス感染症の拡大という難局に直面しています。感染拡大の影響が広く実体経済へと波及するなか、MUFGは、お客さまと従業員の安全確保を第一に、お客さまの生活の維持や事業継続に欠かせない業務に最優先で対応しています。インターネットやアプリなど、いつでもどこからでもご利用いただけるサービスの普及にも努めています。

また、日本赤十字社への寄付に続き、学生の進学・生活、および芸術活動の継続への寄付を含めた支援を行いました。こうした支援が、社会・経済が一日も早く安定を取り戻し活気ある豊かな日常に戻る一助となることを強く願っています。

新型コロナウイルス感染症の拡大は、社会のデジタルシフトや多様な働き方への移行、社会貢献意識の高まりなど、従来からの社会構造変化や課題を一層浮き彫りにしました。MUFGは、こうした変化に能動的に対応し、お客さまや社会の期待に応えていきます。

最後に、厳しい業務環境のもと、お客さまの生活維持や事業継続に向けて創意工夫しながら最前線で働いている従業員について、経営として大変誇りに思うとともに、そうした従業員の健康と安全を維持することも経営の責務であり、それがお客さまや社会への貢献にも繋がると考えております。

未曾有の難局を乗り越え、どんな環境においても常にお客さまや社会から信頼され続けるMUFGをめざし、役職員一同、全力を尽くしてまいります。今後とも皆さまのご理解と一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2020年6月
取締役
代表執行役社長 グループCEO

亀澤 宏規